

国際日本研究センター 海外大学・機関 調査表

訪問先	フィンランド・ヘルシンキ
調査日時	2014 年 3 月 17 日（月）～3 月 19 日（水）
調査対象機関・学科・関係教員	ヘルシンキ大学文学部世界文化学科アジア研究専攻日本コース Riikka Länsisalmi（リーッカ・ランシサルミ）先生 (University Lecturer in Japanese)
訪問目的	1. 日本研究・日本語教育事情についての調査 (教員への聞き取り調査・授業見学・学生インタビュー) 2. 日本語・日本語教育関連のワークショップ講師担当
調査方法	インタビュー、見学、記録、写真撮影
調査日程	3 月 16 日（日）移動 3 月 17 日（月） ・ 日本語 3（3 年生）授業見学（専任教員担当、学生 15 名） (日本語・日本事情・日本語教育事情について、適宜学生・教員からの質問も受け、答える) ・ 日本語・日本語教育ワークショップ 「日本語の文章表現における辞書使用を考える:調査研究事例に基づいて」の題で発表、質疑応答 日本語 4（4 年生）受講生（大学院生）、日本語教師等約 20 名参加 ・ 教員、大学院生と意見交換 3 月 18 日（火） ・ 学生インタビュー（3 年生 2 名）（約 50 分） ・ 日本語 1（1 年生）授業見学（専任教員担当、学生 17 名） (日本語・日本事情・日本語教育事情について、適宜学生・教員からの質問も受け、答える)) ・ 専任教員インタビュー（約 1 時間） ・ 非常勤の先生と情報交換 3 月 19 日（水） ・ 日本語会話（3 年生）授業見学（非常勤講師担当、学生 15 名） (テーマ：日本の大衆文化について グループ準備作業・グループ発表に加わり、内容質問等を行う。 各グループの発表テーマ：「秋葉原の歴史」「アイドルになる

	方法」「SEGA（会社名）の歴史」「宮崎駿の作品について」「沖縄の食べ物」「なぜ日本のフィギュアスケートは盛んなのか」) 3月20日（木）～21日（金）移動
調査結果	【日本語コースの位置付け】 ・ ヘルシンキ大学における日本語教育は、文学部世界文化学科アジア研究専攻において、日本研究を行うために必要な手段として位置付けられている。 ・ アジア研究専攻のうち、日本語コースに在籍している学生は全年あわせて約60名。 ・ 1年生は初級日本語からスタートするが、入学者のうち何人かは、既に高校での交換留学や独学などで日本語をある程度身に付けている場合もある。 ・ 学生の関心は、日本文化、文学、歴史、社会、政治、経済など様々であるが、言語学的な関心を持って日本語を学んでいる者もいる。 ・ 2014年度より、アジア研究専攻において「中国語教育」および「日本語教育」についての新しいトラックが開設されることとなった。教育学部での単位（60単位）もあわせて取得した上で、修了後は、外国語（中国語・日本語）教育についての資格が取得できる。 【教員数、授業数、使用教科書など】 ・ 日本研究を専門とする教授1名（日本語教育は担当しない）、および日本語教育・言語学を専門とする専任教員（University Lecturer：卒業論文・修士論文指導も行う）が1名在籍する。その他、日本語教育を担当する非常勤講師が2名（フィンランド人、日本人）いる。 ・ 2014年度より、専任教員（フィンランド人）の日本語授業に、日本語母語話者（ヘルシンキ大学修士課程在籍者、協定校からの留学生、および現地の日本語補習校の授業担当者など）がコースアシスタントとして参加することになった。（修士課程在籍者には、コースアシスタントの業務は履修単位としてカウントされる。）アシスタント募集等の手続きは、他の外国語教育もあわせて、すべて学内の語学センターで行っている。 ・ アジアの歴史、宗教、政治、文化などを学ぶ他に、日本語についての履修授業は以下の通り。日本語既習者の場合は、学年にかか

わらず上のレベルの日本語コースを受講することも可能。

1 年次：日本語 1（90 分×2／週）

言語知識（主として文法）（90 分×1／週）

2 年次：日本語 2（90 分×3／週）

3 年次：日本語 3（90 分×2／週）

日本語会話（作文等も含む）（90 分×1／週）

卒業論文執筆（日本語、日本文化、文学、歴史、経済、
政治、社会などの日本関連のテーマ）

4 年次（大学院修士課程）：

日本語 4（90 分×2／週）

～ 修士論文

- ・ 1～2 年次では『新文化初級日本語』（凡人社）、『ニューアプロー
チ 基礎編』（語文研究社）、『Basic Kanji Book』（凡人社）、
『Intermediate Kanji Book』（凡人社）などを使用。
- ・ 随時、より良い教科書を探している。そのため、本学留学生日本
語教育センターや国際日本研究センターで開発中の日本語教科書
にも関心を持って見ている。

【学生の進路等】

- ・ 大学の在籍年限はさほど厳しくないとのことで、2 年ほどかけて卒
業論文を提出する学生も多い。
- ・ ほとんどの学生は、学部修了後、修士課程に進学する。
（日本語コースの修士課程学生数は約 30 名、博士課程は約 10 名。
修士論文の提出も 3 年ほど時間をかけて行う学生が多い。）
- ・ インタビューを行った学生 2 名（3 年生）は、いずれも高校生の頃、
短期間日本語のコースを受講した経験がある。自宅に日本人高校
生のホームステイを引き受けていたり、自身も短期間日本に滞在
したことがある。留学（1 年間などの長期）の経験はまだないため、
文部科学省の奨学金試験を受験する予定である。日本への留学に
ついては、日本語力を高め、日本語を使ってコミュニケーション
することについて自信をつけることのできるよい機会になるだろ
うと述べており、明確な目的意識を持っている。将来については
まだ決めていないが、国際関係の仕事など、興味を持った方向に
進んでいきたいということである。

その他	【東京外国語大学との関係（外語大卒業生の有無など）】 ・ 外国語学部日本専攻出身者1名がヘルシンキ大学博士課程に在籍しており、日本語コースの非常勤講師を務めている。 ・ 日本語・日本文化研修留学生として外大に1年間在籍した学生が、修士課程に在籍中である。現在は翻訳の仕事を中心に行っており、修士論文はこれから執筆する予定である。 【東京外国語大学との関係の将来的展望】 ・ 2014年度から日本語教育のトラックが開設されることもあり、将来的には教授法・教材開発等、何か協働ができるとよい。日本語教育のインターンを受け入れることも可能性ありとのこと。 ・ 日本語のサマーコースなどが開設されれば、留学先として情報をもraitたい。 【受け渡し資料】 ・ 外大パンフレット、国際日本研究センターパンフレット、留学生日本語教育センターパンフレット、全学日本語プログラム履修案内（2013年度秋学期）、「JLPTUFS 作文コーパス」（CD）、『大学生の日本語（2012試用版）』（留学生日本語教育センター開発中の初級教科書）Vol.1&Vol.2（使用制限付き）
------------	---

調査担当者： 留学生日本語教育センター・国際日本研究センター対照日本語部門兼任
鈴木 智美



（市内中央部に位置し、いくつかの学部が集まるキャンパス。入口およびその中庭）



（３年生の日本語授業。「日本語を学ぶ目的」をテーマに資料を解説し、ディスカッションを行っている。）



（１年生の日本語授業。比較構文の復習を行いながら、町の紹介を行う。）



（先方の教員と、調査担当者）